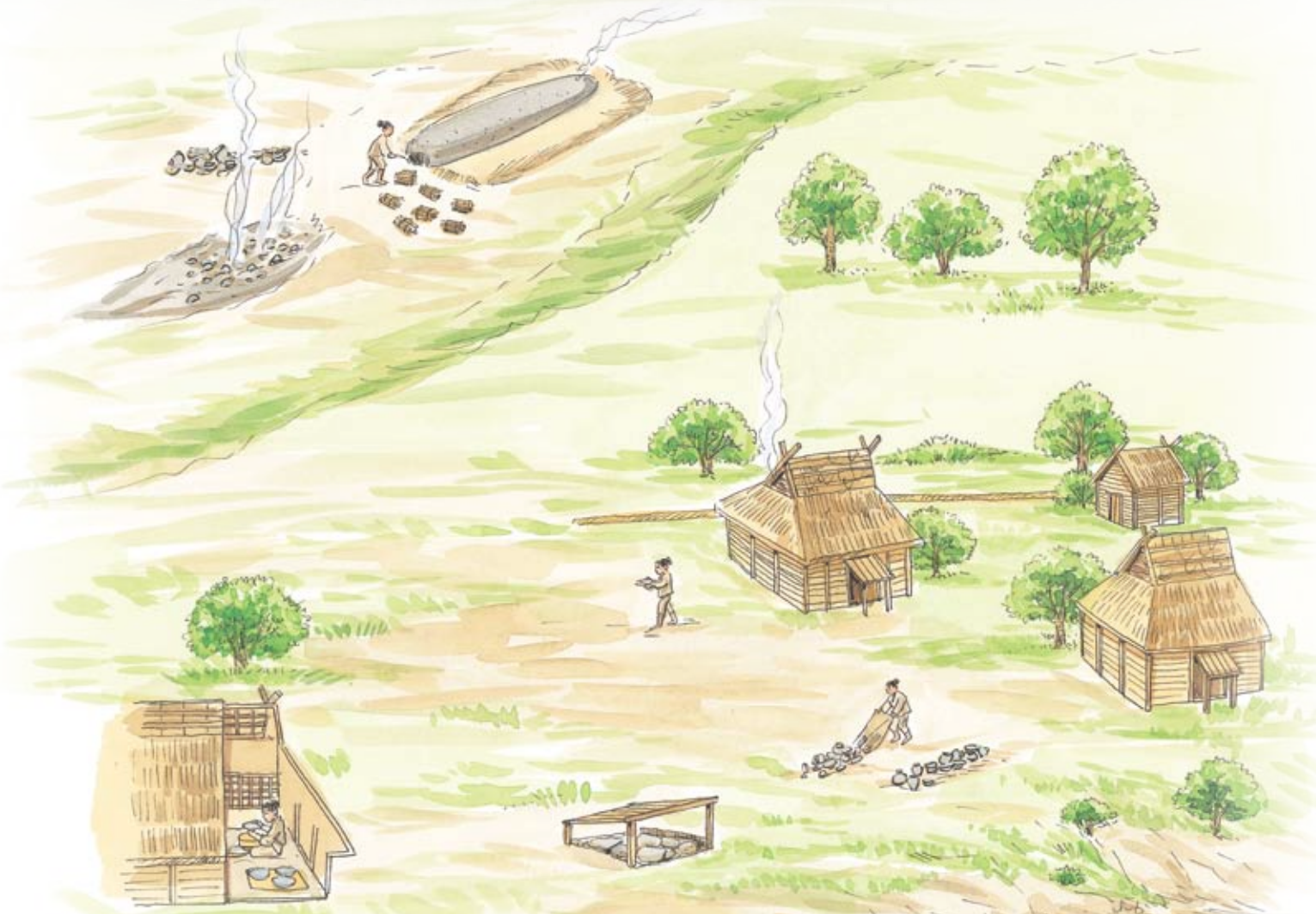
須恵器を焼く谷と工房

東中田A古窯

現　地　説　明　会



平成 19 年9月 15 日（土）10:00 ～
豊橋市東細谷町東中田地内
（国道 23 号線建設予定地内）

調査主体　財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団
　　愛知県埋蔵文化財センター
調査支援　大成エンジニアリング株式会社

豊橋市東中田Ａ古窯は、飛鳥時代終わり頃（約 1300 年前）に須恵器と呼ばれる陶器を焼いた窯跡です。

東側の斜面には窯跡の一部が残っていました。窯跡のすぐ横と後ろでは２軒の建物跡がみつかりました。建物は窯跡での陶器生産に関係した工房と考えられます。

窯は一部分がトンネル状になって残っていました。どうも変わったつくりをしているようなのですが…。

樽のような形をしたかわいらしい容器がこの工房からは見つかりました。展示コーナーで見つけてみましょう。

工房はどちらにも北側の隅にかまど、西側の隅に粘土置き場があります。ロクロを使って粘土から器を形作っていた場所と考えられます。ときにはかまどで炊事もしていたようです。

西側の斜面から続く谷には、かつて斜面にあった窯跡で窯焚きをしたときに出た灰や炭、焼き損じた陶器などが捨てられて真っ黒になっています。

網に付けるおもりも焼いてました。海で使うのでしょうか。

須恵器はロクロを使って工房で作られ、すぐ近くの窯で焼かれました。焼かれたものには食器として使う蓋付きの碗や皿、貯蔵用のツボやカメなどがあります。さまざまな形のものをろいろいろな大きさに作り分けて各地に出荷しました。

発掘調査では、窯跡と工房、谷の捨て場、それぞれの様子を知ることができました。また工房からは、生産に携わった人びとが使った鉄や石の道具も見つかっています。どのような人びとが、どのように須恵器を生産し、どのような暮らしをしていたのか、これから明らかになっていくことでしょう。

里山周辺の丘陵の谷間には飛鳥時代から奈良時代（7～8世紀）に陶器を生産した窯跡がたくさん分布しています。湖西市側から続くこの土地は、当時、日本でも有数の陶器の生産地だったのです。

編集発行

財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団　愛知県埋蔵文化財センター

〒498-0017　愛知県弥富市前ヶ須町野方 802-24

TEL　0567-67-4163　FAX　0567-67-3054

http://www.maibun.com　E-mail doki@maibun.com

平成 19 年 9 月 15 日